

## ベトナムダナン医薬技術大学とのオンライン国際看護交流活動

Online international nursing exchange activities with Da Nang University of Medical Technology and Pharmacy, Vietnam

○李孟蓉<sup>1</sup>, Luu Thi Thuy<sup>2</sup>, レーグエン キムガン<sup>3</sup>, 丸山景子<sup>4</sup>, 竹下夏美<sup>5</sup>,  
福島直子<sup>1</sup>, 高田絵理子<sup>1</sup>, 芝山江美子<sup>6</sup>

Moyo Ri, Luu Thi Thuy, Le Nguyen Kim Ngan, Keiko Maruyama, Takeshita Natsumi,  
Fukushima Naoko, Takada Eriko, Shibayama Emiko

1 高崎健康福祉大学, 2 Da Nang University of Medical Technology and Pharmacy,  
3 藤田医科大学, 4 仙台徳洲会病院, 5 京都橘大学, 6 上武大学

Takasaki University of Health and Welfare, Da Nang University of Medical Technology and Pharmacy,  
Fujita Health University, Sendai Tokusyuikai Hospital, Kyoto Tachibana University, Jobu University

### 【はじめに】

日本国際看護学会（以下学会）が主催するパラオ共和国スタディツアーが新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）により2020年2月より延期をせざるを得ない状況が続いた。今回はスタディツアーの代替として学会の国際活動委員会がオンライン国際看護交流（以下交流）を企画し実施した。交流を通して、COVID-19の蔓延におけるベトナム（以下ベ国）の感染状況と感染対策、ベトナムダナン医薬技術大学（以下ダ大）の看護教育における工夫等について学び、考えたことを報告する。

### 【方法】

学会会員のうち、参加希望者と看護学生が2022年5月7日にダ大とのZoomによるオンライン交流に参加した。なお、日本側の看護学生とベ国側の参加者は学会会員ではない。倫理的配慮として、オンラインで交流する大学は学会が調整し承諾を得た。また、交流前にメールにて、交流時の様子を個人が特定されないように工夫し、学会HP等の掲載使用の承諾を得たものとした。

### 【結果と考察】

参加者は学会理事長と会員、看護学生、ダ大看護学部長、教員、4年生の看護学生、計153名が参加した。

#### 1) 大学紹介

ダ大は1963年に設立され、2013年に大学として編成された保健省管轄の国立大学である。3つのセンターと7つの学部を有する。学生数は3,891名、うち看護学部生1,122名。

#### 2) COVID-19の感染状況と感染対策、ワクチン接種率等

ベ国におけるCOVID-19の感染状況は4つの波を経験した。2022年2-4月はベ国全国がロックダウンを行い、ダ大は7-9月学生に“stay home”の対策を、9月14日から登校を再開した。ベ国政府が行った対策として、指令第15号、16号、19号を施行した。2022年年5月5日時点の累計感染者数は10,670,570、死者43,000人余り、コロナワクチン接種回数は1回目、2回目、3回以上の接種率はそれぞれ83%、80%、47%であった。5~11歳へのワクチン接種率10%に留まっている。

#### 3) COVID-19感染拡大中の看護教育の工夫

ロックダウンやstay homeが実施されている中、教育訓練省の指針に従い、学期の期限延長や入学試験の延期、対面授業をオンライン授業に切り替えた。オンライン授業では無料で使え

るGoogle Meet、Zoomを活用した。また、学生が就学期限内に卒業できるように、講義と臨地実習の時期を変更し、教育の質を担保しつつ卒業要件を満たすような取り組みを行った。その他、ケーススタディやシミュレーション教育、少人数制教育、クリニック等実習を受け入れる実習施設を拡充し、実習にボランティア活動を組み入れる工夫を行った。教育におけるサポート以外に生活面においても支援を行った。

#### 4) 実習病院の臨地実習における対応、取り組み

ロックダウン期間、病院は実習生の受入れを一時見送った。また、医療従事者が不足している病院施設には、保健省から看護学生のボランティアを募った。2020年の感染拡大において、オンラインにて理論に関する授業について教授した。2021年6-7月病院のスキルアップルームで行う実習の代替として、教員、臨床の看護実習指導者がオンラインでケーススタディ、少人数のグループでシミュレーション教育を行った。

実習指導をオンラインで行うためのツール、視聴覚教材がないため工夫を要した。事例の作成や利用可能なインフラを利用して、オリジナルビデオやその他のバーチャル学習教材の開発、インターネットから無料のビデオ教材を活用した。オンラインツールとしてはGoogle Classroom、Skype、Microsoft Teams、Zoomを活用した。

### 【まとめ】

COVID-19の感染拡大の状況下において、オンラインでの学習計画と実施、分散登校での学内実習については、日本、ベ国で共通していた。また、病院側の実習受け入れ態勢についての状況や努力についての発表があり、看護部全体で対応し、実習できるように人的環境の整備に努めていることは共通していた。さらに大学がコロナ禍で生活に困窮している学生が継続して学習が行えるように、支援をしているところも日本とベ国では共通していると感じた。実習にボランティア活動を組み入れる工夫や、医療従事者が不足している病院施設には、保健省から看護学生のボランティアを募ったことは日本にはない視点だった。